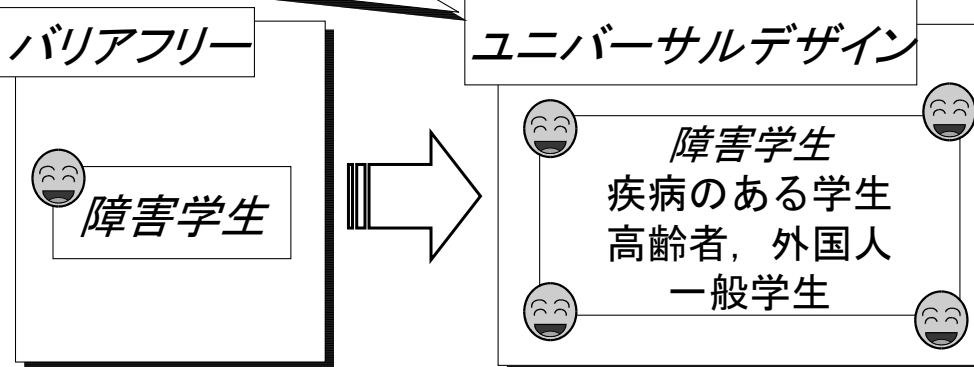


Phase 2: 高等教育のユニバーサルデザイン化 (特色GP採択)H16-19

9

はじめから使いやすい設計,
分かりやすい情報伝達法, 教授法



9

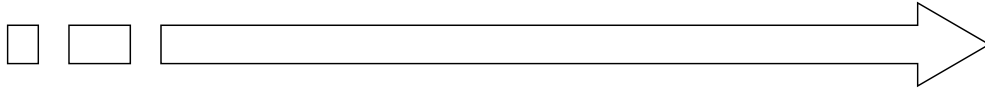
Phase 3: アクセシビリティ教育の必要性 (H18~)

• 知らない、分からない ⇒ 心理的バリア

- 障害の有無、年齢、身体特性、言語、文化…といった多様性理解
- 授業や授業方法の特性の理解
- ITを活用した支援技術・支援方法に関する知見
- 大学や企業、地域における支援活動の実践による経験
- 分野を問わないアクセシビリティ・センス

全ての学生・教職員対象としたアクセシビリティ教育

3. アクセシビリティセンターの ミッション



アクセシビリティセンター

- アクセシビリティセンター会議（全学組織）
- センター長（兼任）
- 専任職員3名 准教授、情報支援コーディネーター、事務職員

アクセシビリティ支援

- 障害学生の修学支援
- アクセシビリティ支援に関する相談事業
- 情報機器を活用した情報支援
- 支援者育成と派遣
- 障害学生修学支援ネットワーク事業

教育・人材育成

- 支援者育成のための授業（概論、実習）
- 講習会、研修会の実施
- アクセシビリティリーダー育成プログラム
- アクセシビリティセンターインターンシップ

支援方法開発

- 音声認識技術を活用した教育支援
- 教授法
- 最適な評価方法
- 国際化

日本学生支援機構

マイクロソフト株式会社

日本IBM

連携事業

セントメアリーズ大学(加)

リーズメトロポリタン大学(英)